

(社)日本原子力学会 第42回 標準委員会 (SC) 議事録

1. 日時 2010年9月9日(木) 13:30~17:30
2. 場所 (独)原子力安全基盤機構 別館11階 11A, B, C会議室
3. 出席者(敬称略)
 - (出席委員) 宮野(委員長), 平野(光)(副委員長), 岡本(孝)(幹事), 井口, 岡本(太), 喜多尾, 柴田, 千種, 常松, 西岡, 西脇, 林, 原, 平野(雅), 古川(15名)
 - (代理出席委員) 中沢(石原代理), 山下(和)(吉田代理), 正影(大島代理), 山下(正)(佐藤代理), 水繰(荘野代理), 谷川(辻代理), 伊藤(百々代理), 山川(三枝代理), 渡邊(有富代理)(9名)
 - (欠席委員) 青柳, 岩田, 小原, 関村, 中井(5名)
 - (フェロー) 成合
 - (常時参加者) 小口(1名)
 - (欠席常時参加者) 菊池, 中村(2名)
 - (説明者) 吉原(LLW施設検査分科会), 中村(水化学管理分科会), 藤原(ウラン・TRUクリアランス分科会), 田中, 森本(廃止措置分科会)(5名)
 - (傍聴者) 安念, 西村, 新津, 小川, 村上, 佐藤, 池田(8名)
 - (事務局) 岡村, 谷井, 菅野
4. 配付資料
 - SC42-1 第41回標準委員会議事録(案)
 - SC42-2-1 人事について(委員会)
 - SC42-2-2 人事について(専門部会)
 - SC42-3-1 公衆審査結果「余裕深度処分施設の施設検査方法(案)」, 「ピット処分施設の施設検査方法(案)」, 「トレンチ処分施設の施設検査方法(案)」
 - SC42-3-2(1) 「第二種廃棄物埋設の事業に関する安全審査の基本的考え方」と「余裕深度処分施設の施設検査方法」との記載内容比較検討表
 - SC42-3-2(2) 「同上」と「ピット処分施設の施設検査方法」との記載内容比較検討表
 - SC42-3-2(3) 「同上」と「トレンチ処分施設の施設検査方法」との記載内容比較検討表
 - SC42-3-3 第44回原子燃料サイクル専門部会における施設検査標準(案)審議結果概要
 - SC42-3-4 標準制定に向けた今後の対応について
 - SC42-4-1 標準委員会書面投票結果(溶存水素)
 - SC42-4-2 「加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法-溶存水素」に係るコメント対応一覧表

- SC42-4-3 「加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－溶存水素」新旧比較表
- SC42-4-4 「加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－溶存水素（案）」
- SC42-5-1 標準委員会書面投票結果（放射性よう素）
- SC42-5-2 「加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－放射性よう素」に係るコメント対応一覧表
- SC42-5-3 「加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－放射性よう素」新旧比較表
- SC42-5-4 「加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－放射性よう素（案）」
- SC42-6-1 【標準原案】ウラン・TRU取扱施設におけるクリアランスの判断方法：201X 専門部会での書面投票結果及びコメント対応について
- SC42-6-1 添付資料 原子燃料サイクル専門部会での書面投票前後の標準原案の概要
- SC42-6-2 【標準原案】ウラン・TRU取扱施設におけるクリアランスの判断方法：201X（見え消し版）
- SC42-6-3 【標準原案】ウラン・TRU取扱施設におけるクリアランスの判断方法：201X（完成版）
- SC42-7-1 【中間報告】「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：20XX」改定について
- SC42-7-1 参考1 技術評価【中間報告】
- SC42-7-1 参考2 廃止措置に係る学会標準の改定の進め方について
- SC42-7-2 【中間報告】「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：20XX」改定について（PPT）
- SC42-7-3 「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：20XX」改定案
- SC42-7-4 「実用発電用原子炉等の廃止措置の計画：20XX」改定前後比較表
- SC42-8-1 【中間報告】「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」改定の概要
- SC42-8-2 【中間報告】「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」改定の概要（PPT）
- SC42-8-3 「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」改定案と「原子力施設の廃止措置の計画と実施：2006」,「原子力施設の廃止措置の計画：2009」及びJISZ8301との関係比較
- SC42-8-4 「原子力施設の廃止措置の実施：20XX」改定案
- SC42-9 専門部会活動状況報告
- SC42-10 標準委員会の活動状況

参考資料

- SC42-参考1 標準委員会名簿
- SC42-参考2 標準委員会開催スケジュールについて
- SC42-参考3 標準策定スケジュール（案）（実績反映版）

5. 議事

(1) 出席者、資料の確認

事務局より、開始時点で委員29名中代理を含めて23名の委員が出席しており、委員会成立に必要な委員数（20名）を満足している旨、報告された。

(2) 前回議事録の確認

前回議事録(案)については事前に配付されており、承認された。(SC42-1)

(3) 人事について (SC42-2-1, 2)

a. 標準委員会

①退任：荘野 尚志 (九州電力), 吉田 昌郎 (東京電力), 辻 昭夫 (日立GEニュークリア・エナジー), 百々 隆 (日本原子力技術協会)

②新任：水線 浩一 (九州電力), 山下 和彦 (東京電力), 谷川 尚司 (日立GEニュークリア・エナジー), 伊藤 裕之 (日本原子力技術協会)

③再任：青柳 春樹 (日本原燃), 古川 雄二 (三菱重工)

審議の結果, 委員の新任, 再任について承認された。

b. 原子燃料サイクル専門部会

①分科会代表者の選任

木倉 宏成 ((東京工業大学), 輸送容器科会)

審議の結果, 分科会代表者の選任が承認された。

c. リスク専門部会

①退任：瀬谷崎 裕之 ((株)三菱総合研究所), 吉田 智朗 (一般社団法人 日本原子力技術協会)

②新任：北村 豊 ((株)三菱総合研究所), 座間 俊行 (一般社団法人 日本原子力技術協会)

審議の結果, 委員の新任が承認された。

d. システム安全専門部会

①退任：阿部 守康 (東京電力(株)), 瀧口 英樹 (日本原子力発電(株)), 谷川 尚司 (日立・GEニュークリア・エナジー(株))

②新任：巻上 毅司 (東京電力(株)), 久宗 健志 (日本原子力発電(株)), 竹内力 (日立・GEニュークリア・エナジー(株))

③委員の業種変更：

中村 隆夫 事業者 (関西電力(株)) → 学識経験者 (大阪大学)

審議の結果, 委員の新任が承認された。

(4) 「余裕深度処分施設の施設検査方法(案)」, 「トレンチ処分施設の施設検査方法(案)」, 「ピット処分施設の施設検査方法(案)」公衆審査結果とその対応について (SC42-3-1~3)

LLW 施設検査分科会吉原幹事より, 公衆審査意見が無かったことが報告された後, 併せて公衆審査期間中に第二種埋設に係る安全審査指針が決定されたため, 整合性

の確認を行ったとの説明があった。引き続き、「トレンチ処分施設の施設検査方法（案）」、「ピット処分施設の施設検査方法（案）」について、安全審査指針との整合性の確認結果並びにその結果に基づく標準原案の修正が提案され、審議の結果、提案の修正は表現上の修正と見なされるので、標準原案を修正した上で制定することが決議された。

一方、「余裕深度処分施設の施設検査方法（案）」に関しては、安全審査指針との整合性の確認が不十分であることから、引き続き検討を行い、次回標準委員会で結果を報告することにしたいとの提案が行われ、審議の結果、了承された。

主な議論：

- ・ 「余裕深度処分施設の施設検査方法（案）」に関しては、公衆審査で意見は無かったが、敢えて制定を保留したいということか。
 - 制定しても、指針と不整合があると後々不都合が生じる。専門部会でもチェックすべきとの意見が出ており、分科会を開催して整合性について詳細に検討した上で、次回の専門部会及び標準委員会にその結果と標準修正の必要性の有無などを報告し、制定の可否を審議いただきたく、今回は制定保留を希望した次第である。

(5)【書面投票結果の審議】「加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－溶存水素（案）」
(SC42-4-1～4)

事務局より書面投票では保留意見が3票あったが可決されたとの報告が行われた後、水化学分科会中村幹事より、保留意見等への対応（案）及び標準原案の修正（案）が報告され、了承されるとともに公衆審査への移行が決議された。

主な議論：

- ・ 273 に対する説明がないのに、1000 のみ換算係数との説明があるのは整合性が取れないのでは。
 - $1000 \times C_s$ ではなく $C_s \times 1000$ ではないか。
 - 式の記述を $C_s \times 1000$ とすることで、1000 の意味が自明となることから、説明が不要となる。
- ・ P. 18 に、「適用できない場合は取扱説明書に従う。」との記載が有るが、不要ではないか。
 - 本標準以外の溶存水素計は使えないという誤解を招かないよう、記載したもの。
 - 本標準を否定しているようにも考えられるので、解説に書くのはおかしいのではないか。
 - 書くのであれば、「取扱説明書を参考に、適用範囲や総合精度について、別途評価する。」といった記載にすること。

(6) 【書面投票結果の審議】「加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法－放射性よう素(案)」(SC42-5-1～4)

事務局より書面投票では反対意見が1票あり可決されなかったとの報告が行われた後、水化学分科会中村幹事より、反対意見等への対応(案)及び標準原案の修正(案)が報告された。この対応(案)により、反対意見は解消され、対応(案)及び標準原案の修正(案)は了承され、公衆審査への移行が決議された。

- ・ 3.3の放射性よう素の定義の文章がおかしい。放射性よう素の内、I-131, I-133とすべき。
→ 拝承。

(7) 【本報告】「ウラン・TRU取扱施設におけるクリアランスの判断方法(案)」(SC42-6-1～4)

ウラン・TRUクリアランス分科会藤原幹事より、資料SC42-6-1～4に基づき、原子燃料サイクル専門部会における書面投票において、反対意見解消のためにTRU取扱い施設に関する記載を削除し、タイトル、適用範囲をウラン取扱施設に限定した形に変更したいとの提案が行われ、変更部分を中心に標準原案の修正(案)が説明された。

審議の結果、新たに追加した項目は無いとは言え、編集上の修正とは言い難い事から、宮野委員長より、本日のコメントを踏まえた修正をした上で原子燃料サイクル専門部会にて書面投票を行い、可決されればそのまま標準委員会の書面投票に入ることが提案され、了承された。

主な議論：

- ・ TRUを含めるなら、10%ルールだったが、ウランのみなら5核種全て対象で良いとなったもの。エディトリアルと言うには多少無理があるが、分科会としては中身を絞った形でまずは制定したいとのこと。
→ ウランについては、安全委員会で議論され、IAEA指針と比べても問題なしとの結論。TRUについてもおそらく問題無いただろうということで分科会では議論してきたが、安全委員会では議論されていない。解説に残すことも検討したが、やっても良いとの誤解を招くのもまずいため、全て削除した。10%ルールについては、ウランに関しては5核種しか無いので、全てやった方が良いとの判断。もともと両論併記であり、安全側の変更である。
→ 問題は無いと思うが、削除だからそれですべて良いということではない。判断基準を変えたことについて、議論されているのであれば投票しても結果は変わらないと思うが、ルールなのでやるべき。
→ 専門部会では一度議論して判断されたもの。尊重すべきではないか。

- ・ ずっと TRU を含めて検討してきたのに、反対意見でいきなり消えてしまうのは違和感がある。何らかのコメントを残してはどうか。
 - 解説に、議論の経緯を記載している。
 - 学会としては、まず技術的にどうかというのが重要。TRU 取扱施設は、規制の検討が行われていないからといった理由でウランだけの標準にするといった p. 100 の記載は見直すべき。
- ・ 分科会としては、今行われたようなことについて議論した上で、まずはウラン取扱施設について標準化したいと考えた。もちろん、今後 TRU 取扱施設の標準化の際にはこれまでの検討結果は利用できる。また、基準とするか指針かといった議論があり、ウランのみなら基準、TRU も含めれば指針となる。
- ・ 本日の議論で直す部分もある。修正した上で、専門部会で投票いただき、その結果可決されれば引き続き標準委員会で投票にかけられる形にしてはどうか。
 - 投票期間はどうか。再投票という位置付けなら 2 週間になるが。
 - 専門部会で決めれば良い。

(8) 【中間報告】「廃止措置の計画：(改定版)」(SC42-7)

廃止措置分科会の主査でもある岡本(孝)幹事より、廃止措置に係わる標準策定の経緯並びに今後の制改定の方針が説明された後、廃止措置分科会の田中幹事より、「廃止措置の計画：2009」の改定について、経緯及び改定(案)が説明された。何か追加のコメントがあれば事務局に提出することとされた。

主な議論：

- ・ 廃止措置の実施もエンドース対象か。
 - 廃止措置の実施は、実際に廃止措置を実施する際のガイドライン的なもの。エンドース対象とは考えていない。
- ・ 指摘を受けたから対応する、ではないか。
 - 必ずしも全て対応するわけではない。
 - 判断の経緯を残していただきたい。

(9) 【中間報告】「廃止措置の実施：(改定版)」(SC42-8)

廃止措置分科会の森本委員より、「廃止措置の実施：(改定版)」の改定の進め方及び改定(案)が説明された。何かコメントがあれば事務局に提出することとされた。

(10) 専門部会の活動状況 (SC42-9)

事務局より、資料 SC42-9 に基づき、各専門部会の活動状況が報告された。

(10) 標準委員会の活動状況 (SC42-10)

事務局より、SC42-10に基づき、標準委員会の活動状況が報告された後、宮野委員長より、国の動きについて捕捉の説明が行われた。

6. その他

次回委員会は、12月8日(木)午後に行うこととした。

以 上